

5. 地方からの便り

救急フェア2004in服部緑地を開催

大阪府 豊中市消防本部

豊中市北消防署においては、「救急の日」及び「救急医療週間」行事の一環として、平成16年9月5日に服部緑地 西中央広場において、「救急フェア2004in服部緑地」を開催しました。

高齢化及び社会環境の変化に伴い、救急需要は当市においても年々増加傾向にあり、多くの市民の方に正しい応急手当の方法を学んでいただくとともに、救急活動に対する市民の一層の理解と認識を深めていただくことを目的として会場では、心肺蘇生法体験コーナー、救急車ペーパークラフトコーナー、救急車ラジコンコーナー、救急資器材展示など多数のコーナーを開設しました。

大変厳しい残暑の中、応急手当の重要性等を市民に広くアピールし、千人を超える来場者で会場は大変な盛況でありました。



[▲ このページの上に戻る](#)

山鹿鹿本広域第9回消防フェスティバル

熊本県 山鹿鹿本広域行政事務組合消防本部



9月25日(土)、第9回消防フェスティバルが山鹿市カルチャースポーツセンターにおいて開催されました。

家庭や職場など、地域の中でも防火への意識を高めてもらおうと始められた催しで、山鹿鹿本幼少年婦人防火委員会の主催で行われました。

地域の保育園児や婦人防火クラブなどが参加して毎年開かれています。フェスティバルを通じてそれぞれのクラブが交流することにより、防火意識が年々とたかまっています。



午前10時に始まった式典では、かおう保育園幼年消防クラブなど4団体を地域の優良クラブとして表彰しました。続いて、保育園児や幼稚園児によるステージ発表があり、豊田保育園幼年消防クラブによる規律訓練・はしご乗りなど、7団体が演技を披露しました。「火遊びはしません」「たばこのポイ捨てはやめよう」といったメッセージが目立ちました。屋外では、はしご車試乗や綱渡り体験、初期消火訓練、応急処置体験など、7つのコーナーを巡るスタンプラリーが行われ、人気を集めていました。

消防隊と県防災ヘリ「ひばり」も参加した訓練もあり、地域住民は消防活動について理解を深めていました。

今後、空気が乾燥して火災に一段と注意が必要なシーズンを迎えるにあたり、大事なのは一人ひとりの防火への心がけです。今回のフェスティバルが参加者にとって有意義になったと思われます。



[🔼 このページの上に戻る](#)

「ファイア・パーク・イン・バクロウ」を開催

富山県 高岡市消防本部

9月3日(金)、長かった夏休みも終わり、プールや課外授業で真っ黒に日焼けした児童の顔がそろった高岡市立博労小学校において「ファイア・パーク・イン・バクロウ」が開催され、少年消防クラブ員、保護者、地元消防団員等、約600名が集まりました。



「ファイア・パーク」は、火や煙の怖さ、消火方法等、火災予防に関する知識を、少年消防クラブ員と保護者がいっしょになって体験し、学んでもらおうと実施しています。

女性消防団体が、家庭における「うっかり火災」についてユーモアたっぷりの寸劇を披露すると、クラブ員だけでなく保護者からも笑いがもれていました。

消
防
署
員
が
てん



ぷら油が発火し火災になるまでの過程を再現し、身近にあるタオルやシーツを使った消火方法について説明しました。

特に、発火した天ぷら油に水を入れて大きな炎が上がると、驚いて「わー」と悲鳴をあげる子もいましたが、「天ぷらを揚げるときは、その場を離れないことがなによりも大切」という署員の説明に、真剣な表情でうなづいていました。

各体験を通しクラブ員や保護者からは、「火は怖いもの、でも大切なもの。正しく火を使うことが大切。」との声が聞かれました。

今回学んだ火災予防の知識を、それぞれが家庭に持ち帰り、家族に伝えることによって。「住宅防火」の輪がさらに広がることを願っています。

[▲ このページの上に戻る](#)

江西地区防災フェスティバル 「防災はみんなで奏でるシンフォニー」

静岡県 浜松市消防本部

[多くの住民が、楽しく真剣に防災活動に参加できるように]



「防災はみんなで奏でるシンフォニー」。このみんなの心に響いてくるような素敵なメッセージとともに、特に音楽を通して、たくさんの地域住民の参加と、実践的な防災意識を高めてもらえる場づくりを目指したのが、静岡県浜松市内の江西地区で、10町会から成っています。会場は、地域の防災拠点でもある浅間小学校で、浜松駅から徒歩15分ほどの住宅街の中にありました。

10月17日（日）、抜けるような秋の青空のもと、その浅間小学校では朝早くから浅間婦人防災クラブ員をはじめとした地域住民らが準備に奔走。そして、幼稚園の鼓笛隊、小学校の金管バンド、そして浜松市消防音

楽隊の演奏・マーチングパレードと、ほほえましく、またすばらしいメロディが奏でられる中、たくさん地域住民が連携しあい、特に小さいお子さんをもつたくさんの親子さんが、楽しみながら、しかも真剣に防災訓練に参加しました。

この防災フェスティバルの主催は、江西地区自治連合会・浜松市消防12分団・浅間婦人防災クラブですが、特に今回の防災フェスティバルの意欲的な企画の立案・実施にあたっては、さまざまなアイデアを出したり、地域内外のネットワークを活用するなど、今年結成25周年を迎えた浅間婦人防災クラブが、大きな役割を果たしています。



[全体の流れ]

防災フェスティバルは、浅間小学校の校庭および体育館を利用して行われました。校庭の中心で幼稚園の鼓笛隊・小学校の金管バンド・消防音楽隊が演奏。それを囲むようにスモークハウスやちびっ子レンジャーなどの体験コーナーが設営され、体育館前に置かれたさ起振車を経て、体育館での展示・応急救護訓練などに参加できる流れとなっていました。演奏を聴きつつできるだけ全てに参加できるように、会場と全体の配置が、うまく考慮されていました。

時間	校庭	体育館
	会場設営・非常食の炊き出し準備	会場設営
9:00	開会式	
	朝田幼稚園鼓笛隊+那覇市婦人防火クラブの踊り	福井豪雨災害に関する展示（被害・救援活動の様子、新聞記事など）防災用品展示
10:00	浅間小学校金管バンド消防車の乗車体験	腹話術
10:30	スモークハウス体験バルーン（風船）ちびっ子レンジャー起震車体験	
11:00	消防音楽隊（演奏・マーチングバンド）	応急救護訓練少年消防クラブ員作製の防災ポスター展示
12:00	閉会式非常食の試食（カレー1000食）	



[会場の様子から]

<防災はみんなで奏でるシンフォニー！>

メイン会場では、子ども達による演奏がつぎつぎと行われました。

幼年消防クラブ員でもある浅田幼稚園の園児から



は、ボンボンによる「僕らはみんな生きている」の元気なダンス、鼓笛隊による「歩こう」などの演奏が元気に行われ、そして最後に、竹を太鼓にしての演奏「ハイサイおじさん」では、那覇市婦人防火クラブ員6人も一緒に沖縄の踊りを披露。がんばる園児達に、住民、そして若い親御さんたちの熱い視線と拍手が送られました。

次に浅間小学校の金管バンドが、「オブラディ・オブラダ」などのさわやかな曲を、行進しながら見事に演奏しきりました。

この間にも、スモークハウス・起震車などがうごき、一般の参加者だけでなく、演奏を終了した子どもと親・先生などが、つぎつぎと体験をしています。

そして防災のシンフォニーも、いよいよ浜松市消防音楽隊による演奏とマーチングです。今回は、浅間婦人防災クラブ結成25周年を記念しての、特別出演です。昨年、第5回全国消防音楽隊フェスティバルが浜松市で開催されたことから、浜松市消防音楽隊では、それまで取り組んでいなかったマーチングにもはじめて挑戦し、力をつけ始めているところです。



まず最初に、デキシールドジャズや「東京ブギウギ」「アンフォゲッタブル」、そして14の演歌が組み合わせられたメドレー「ド演歌エクспレス」で盛り上がり、前半の演奏が終了。その後休憩を挟んで、今度は校庭一杯につかったマーチングが披露されました。日本の四季を表現した美しい音色とともに、切れの鋭い音楽隊の隊列組み換え・行進、鮮やかな旗使いが展開され、大きな拍手が送られました。



演奏の合間には、20代の若い隊員から丁寧に曲目の紹介が行われ、またその隊員自らの出動体験から、冬の時期の火災の恐ろしさについて述べつつ、火の元の注意、放火対策、子どもに火の怖さを教えることがいかに大切であるかが参加者に伝えられました。「ほんの小さな注意が未然に火災を防ぐ。これは消防よりも大きな力といえるのです」。熱心に演奏に聞き入っていた参加者ですから、このような場での防災啓発には、大きな効果があったことでしょう。

<くちびっ子も親御さんも先生も、防災訓練体験と一緒に挑戦！>

会場では、スモークハウスや、チビッ子レンジャーなど、いくつかの体験コーナーが設置され、演奏を終えた子どもと親御さん、先生などが、順々に体験して回りました。各コーナーの回り方は自由でしたが、以下、多くの子ども達がまわった順序の様子をご紹介します。

まず浅田幼稚園の園児らは、特にスモークハウスを先生と一緒に体験！煙るテントの中を、3・4人一組で通り抜けたのですが、中で右左へと少々迷ったチームもたくさんあり、園児達にとっては、大変実践的な体験となったようです。



スモークハウスの次は、地域のお父さん達（子供会と自主防災会・消防団員をかねているひと）によるバルーンコーナー。細長い風船を膨らませたら、それが器用にひねられていくと、つぎつぎと剣や動物になっていきます。子ども達は目を輝かせながらその様子を見て、喜んで出来上がったバルーンを受け取っていました。

そのあと、校庭の真ん中におかれた消防車の乗車体験。消防の帽子をかぶって、運転席に座ったり、後部に乗り込んだりして、消防士の仕事に触れます。



次は、チビツ子レンジャーです。数メートルにわたって張られたロープに、体に巻きつけたロープを金具でつなぎながら、自分の腕の力でロープをわたるものです。男の子も女の子も、しっかりした表情で力強く渡りきっていました。

起震車では、親子で体験する姿が目立ちました。十勝沖地震、阪神・淡路大震災など、実際の大規模地震の揺れを体験し、みなさんその怖さをあらためて認識していました。

<体育館では展示・そして楽しい腹話術も！>

体育館でも展示を中心に工夫が凝らされています。まず入り口を入ってすぐに、福井豪雨災害の被災地の様子を撮った写真と、新聞記事が大きく貼り出され、災害の恐ろしさについて認識を改めてもらえるように工夫されていました。また、同時に、少年消防クラブのメンバーが書いた防災啓発ポスターもあわせて展示されています。

その横では、災害時の非常持ち出し品、家庭での備蓄品を展示。



さらにその横では、婦人防災クラブ員の指導による、応急救護訓練について知るコーナーも設けられ、参加者は熱心に取り組みました。

また、10：30からは、消防署員による腹話術が行われ、おじさんと人形達の軽快な会話に多くの子ども達・大人たちが、笑いあいながら楽しみ、そして火災の予防、地域防災の大切さについて学びました。

<閉会式、そして非常食の試食>

閉会式では、地域の防災の担い手である、浜松市消防12分団、浅間婦人防災クラブ、江西地区自主防災隊、幼年・少年消防クラブなどのメンバー一同がそろって今日の活動を振り返り、さらなる防災への取り組みの決意を行うとともに、世代を超えた地域の絆の大切さを再認識されたのではないのでしょうか。

なお閉会式の後すぐに、非常食の試食として、ア

ルファ米を使ったカレーが配られました。朝から仕込みじっくり二時間以上煮込まれたカレーはとてもおいしく、体を動かしたあともあってか、子どもも大人もつぎつぎとおかわりをして、楽しいひと時を過ごしました。



[防災フェスティバルを終えて] (会場の声)

自治会長さんのお話によると、この地区は人口6,000人強で、毎年12月には総合防災訓練を行っており、今回のような、交流を主目的とした訓練は二年に一度ぐらいの開催であるとのこと。さらに自治会長さんのお住まいの地区では、毎月防災訓練を行っているなど、全体的に防災意識の高い地区であることがわかります。

また消防団員の方のお話によると、この江西地区ではここ数年、少年消防クラブ員（江西地区BFC、浅間小・南小あわせて13名）が広報活動に参加したことで、火災の発生率が大きく下がっているということです。

沖縄県・那覇市婦人防災クラブの代表は、「今日はとてもたくさんのことを学びました。地域を守るといふ意気込みもすごいと感じています。この体験を持ちかえって、生かしていきたいとおもいます」と感想を述べていました。

本当に多くの若い親御さんも参加していましたので、お子さんを連れて参加されたというお母さん達からも感想をいただきました。お子さん達はみな本当に楽しくこの防災フェスティバルに参加したとの感想。また「昨年は主人が参加して、応急救護訓練を受けるなどしました。ことしはわたしと子どもが参加したわけですが、このようないざという時の心構えやちょっとした技術がわかるという場は、とても大切ですね」といった意見もありました。

このようなことから、定期的にこのような防災活動を通じた場作りをおこなうことがとても有効であることがわかります。そして地域の子供達に、地域の大人達が自ら命の大切さ、助け合うことの大切さを伝え、そしてそれを実践するために訓練やイベントづくりに自ら汗を流している姿を見せることは、人への信頼関係や思いやりにもとづいた、本当の生きる力をはぐくむことへとつながっていると感じました。

[▲ このページの上に戻る](#)

平成16年度 熊取町防火標語 「火のそばに 必ず置こう 消す心」に決定！

大阪府 熊取町消防本部

熊取町消防本部では、平成16年秋の全国火災予防運動の行事の一環として、熊取町内の中学校生徒を対象に防火標語を募集し、10月7日（木）上垣町長をはじめとする審査員7名による厳正なる審査の結果、熊取町立熊取北中学校1年・寺村友樹さんの作品「火



のそばに必ず置こう 消す心」が平成16年度熊取町防火標語の特選に決定しました。

今回の審査会で入選した防火標語12作品は、熊取町内の公共施設や中学校、J R熊取駅などに展示し住民への防火PRに活用されます。

▲このページの上に戻る

防災フェアの開催

愛知県 幡豆郡消防組合消防本部

平成16年9月26日（サバイバルキャンプは25日午後3時から）に防災フェアが開催されました。

フェアは、連合を構成する1市3町の行政職、消防職、婦人消防クラブを始めとする地域のボランティア団体、そして住民全員が一丸となって地域防災に取り組むことを誓い合い、避難所生活や初期消火などを通じて、応急対策を楽しく有意義に身に付けるために開催されたものです。

避難所生活サバイバルキャンプでは、廃材(段ボールとブルーシート)で作った仮設の非難小屋で実際に寝泊りをし、また夜は炊き出しや周辺の消化設備等を徒歩で探索して、協調性や自立・責任の涵養と消防知識を習得しました。

26日の会場内では、オープニングセレモニーの席上で防火防災作品展の最優秀児童4名に対して表彰伝達が行われました。応募作品は全てホワイトウェーブの館内に掲出され、来場者は感心した様子で熱心に作品を見ながら、防火防災の意識を高めていました。婦人消防クラブは、施設の入口で非常食とチラシを配布し、災害に対する心構えと備えの大切さについて啓発を行いました。



屋外広場においては、婦人消防クラブの豚汁の炊き出し、はしご車や起震車の試乗体験、水消火器による消火訓練等が行われましたが、団員が切り盛りする模擬店によって配られた綿菓子やポップコーンをほおぼりながら、積極的に訓練に参加する来場者の姿が見られました。

午後からの講演会は、阪神淡路大震災を実際に体験された谷川氏を講師にお招きし、当時の生々しい体験談や日頃の心構え、実際に被災したときにはどういった備えをしておけばいいのかをお聞きしまし

た。

訓練や学習は、決してかじこまってしまうものではありません。普段の生活の一部として、楽しく気楽に学び、防火防災の意識を持つことが大切です。

最後に防災フェアが（財）日本防火協会を始めとする関係者の方々のご支援とご協力を得て、無事終了できましたことに深く感謝申し上げます。

[▲ このページの上に戻る](#)

第19回山口県幼少年消防クラブ大会

山口県 光地区消防本部

山口県幼少年クラブ大会が9月21日(日)光市民ホールにて行われました。第1部を式典、第2部をちびっこ防火まつりの2部構成で開催し、第2部では管内の幼年消防クラブ9園、合計300名が参加しました。

会場入口には、光地区消防組合職員手作りのゲートを設置してクラブ員を出迎え、ロビーには幼年消防クラブの旗が掲げられたほか、昨年度の県火災予防の優秀作品の習字やポスター、絵画が展示されました。

式典に続いて行われた「ちびっこ防火まつり」では、各クラブによる合奏や遊戯の発表が行われ、光照幼稚園、東荷幼稚園は合同で「よさこいソーランロック」、三輪幼稚園は「男なら」でそれぞれよさこいを披露し、野原幼稚園はエアロビクス風の体操「キッズピクス」を踊りました。



最後の演目として、虹ヶ丘幼稚園、野原幼稚園の合同で寸劇「ちびっこ消防隊」が披露されました。この劇は、火事になった家をちびっこ消防隊が出動して消火する内容で、あちこちに穴が開けられた家から、赤色のポンポンを持った手をだして、炎が燃えているように見せ、放水すると今度は青色のポンポンに変えて水がかけられる様子を表現していました。これらの多彩な演技を通じて、火災予防の重要性を大いにアピールしていました。

最後にクラブ員全員が声をそろえて「わたしたちは絶対に火あそびはしません」と防火の誓いを力強く述べました。大会を通じ、所期の目的であるクラブ員相互の交流はもとより、幼年消防クラブの育成拡大及び防火思想の高揚を図ることができました。

[▲ このページの上に戻る](#)

第6回消防ふれあいフェスティバル開催

岩手県 釜石市消防本部

当釜石大槌地区行政事務組合消防本部は、1市1町で構成する岩手県沿岸にあって陸中海岸国立公園の中央に位置する海と山に囲まれた風光明媚な自然に恵まれたところにある人口6万2千人余で消防職員104名の中規模消防本部であります。

平成16年10月8日（金）午前10時から12時まで、大槌町の新づくり公園広場において、恒例の釜石地区幼少年婦人防火委員会主催、財団法人日本防火協会共催による「第6回消防ふれあいフェスティバル」が行われました。



503名の幼年消防クラブ員の子供たちと消防関係者とのふれあい体験は、父母や地域住民の参観の中で、第1部の開会式でセレモニーが行われ、可愛い園児による演技に大きな拍手と喝采が会場に響き、締めくくりには代表園児の男女2名による「火遊びしません・火のそばであそびません・みんなで火事をださないようにきをつけます」の三つの防火の誓いを全園児と大声で唱和して約束され、同時にはしご車の先端に吊るされたたくす玉が割られ、垂れ幕と紙吹雪が舞い散り賑やかな開会セレモニーとなりました。

第2部は、消防職員の訓練に対して掛け声や拍手の連続で驚きながらの見学となり、その後は各クラブごとにはしご車、消防自動車をバックにして記念写真の撮影、さらに消防自動車とのふれあい体験で、触ったり乗ったりで笑顔いっぱいの楽しいフェスティバルとなり、幼児期において取り組んだ感動が大人への成長期にきっと効果が得られるものであり、所期の目的を達成することができました。



最後は、消防関係者が整列する中、次回の開催を約束しながら閉会しました。

第12回東浅井郡幼少年消防大会

滋賀県 東浅井郡消防本部



この大会も回を重ね今年で、第12回となりました。郡保育協議会等の協力の基、年々、内容も充実し趣向を凝らして実施しています。

今年は、管内6保育園の園児660名、保育士140名と、その保護者及び未就園児(保育園にいない子)ならびに関係者一同に会し、「火遊びの怖さ、火の用心の大切さ」を、遊びやコンサート等の中から、学んでいただきました。

又、今年も、財団法人、日本防火協会の共催行事として、盛大に開催させていただくことができました。

た。

今年の大会の内容といたしましては、午前の部では、「火の用心の歌の大合唱」、「園児によるお遊戯や歌の発表」、「園児代表の誓いの言葉」などで、火遊びに起因する火災の撲滅を図りました。

今年も、元NHK教育テレビの幼児番組に出演されていた米田和正さんを代表とする「みんなげんきジム」の皆さんによる、ファミリーコンサートを開催いたしました。

楽しい昼食を終えた後、午後は、各コーナーを設け、自由に遊び、体験する中で、「火の用心」を呼びかけました。



最後のフィナーレでは、県の防災ヘリコプター「淡海」が飛来し、園児に「防火のメッセージ」を伝達してくれました。

尚、「ぼうか」の人文字の撮影の計画をしていましたが、あいにくの台風接近に伴う雨で、中止となり残念でありました。

しかしながら、ヘリを目前にした園児たちの真剣なまなざし、輝く目をみますと、準備等の疲れも忘れてしまい、又、来年もと意気込んでいる事務局であります。

当本部も、市町村の合併と併せて、隣接四消防本部との広域再編の作業が進められている中ですが、火災の撲滅は、「幼児期からの教育、躰」が大切であるとの認識の基、継続して開催したく考えております。

救急救命士の除細動で社会復帰

大阪府 泉佐野消防本部

就業中に心筋梗塞により、心肺停止状態になった63歳の男性が、救急救命士の除細動（電気ショック）で一命を取り留め、わずか1か月で社会復帰できたことに感謝し、10月15日、泉佐野市消防本部（木ノ元正春消防長）に退院の報告とお礼が寄せられました。



男性は泉佐野市の下大田さん（63歳）で、9月7日（火）の11時40分頃にりんくう公園で就業中、急に意識がなくなり、その場で倒れたのを同僚が気付き救急要請があったもので、りんくう救急隊が現場到着した時は既に呼吸も無く、心臓も停止している状態で、心電図波形は心室細動（心臓が細かく痙攣している状態）であったため、泉州地域メディカルコントロール協議会（会長 府立泉州救命救急センター所長 横田順一郎）から示されているプロトコールに従い、2回にわたる除細動（電気ショック）を実施した結果、心電図波形は正常な状態となり、呼吸も脈拍も再開しました。搬送した府立泉州救命救急センターで心筋梗塞と判明したため、同日、市立泉佐野病院に転送となり、循環器科で心筋梗塞の手術を受けた後、低体温療法等を行った結果、病状が順調に回復、9月29日に後遺症もなく退院し社会復帰されました。

下大田さんは「救急隊の『助けたい』という強い気持ちと救急隊のチームプレイで助けてくれたと思います。ほんとうに感謝しています。」とお礼を述べました。

搬送した塩谷救急救命士（消防士長）は「救急隊員3人が一丸となって必死に処置しました。これからも更に研修を重ねて、一人でも多くの人を助けることができるよう努力します。」と話しています。

また、府立泉州救命救急センターの山村医師は「救急隊が現場到着後、直ちに除細動を実施したことにより、救命できた貴重な事例である。平成16年7月から、一定の講習を受講した一般市民（バイスタンダー）も自動体外式除細動器（AED）を使えるようになったことから、今後、バイスタンダーが早期に除細動を実施することにより救命できることが増えるのを期待しています。」と話しています。